

H A R U Y A M A 通 信

はるやま商事は

JOCオフィシャルパートナーとして、
2008年北京オリンピック日本代表選手団を
スーツで応援いたします。



メンズ/レディスビジネスウェア
JOC オフィシャルパートナー

株主メモ

決算期日	3月31日
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。
中間配当基準日	9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
公告掲載方法	日本経済新聞 当社の公告方法は、電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。(公告掲載アドレス http://www.haruyama.co.jp)
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第1部)

株主優待制度

毎年3月31日現在の100株以上所有の株主の皆様へ、当社の各店舗で使用できる株主優待券を贈呈。

	発行基準	所有株式数
	100株以上 499株未満	15%割引券 2枚
	500株以上 999株未満	15%割引券 4枚
	1,000株以上 2,999株未満	15%割引券 6枚
	3,000株以上	15%割引券 10枚
	100株以上所有の全ての株主	ネクタイ又は ワイシャツ贈呈券 1枚

<http://www.haruyama.co.jp/>



はるやま商事株式会社

〒700-0822

岡山県岡山市表町1丁目2番3号

TEL : 086-226-7111



この印刷物は100%古紙再生紙と植物性大豆インキを使用しております。

より良いものをより安く
はるやま商事株式会社
www.haruyama.co.jp



はるやま商事は、紳士服業界において、
「より良いものをより安く」をモットーに、
衣食住の垣根を越えた総合流通小売業を目指しています。

はるやま商事は、1974年の設立以来、紳士服の分野を中心に、商品の開発、仕入、販売から自社店舗（紳士服専門店）の展開まで、一貫した事業を展開してきました。

創業以来、脈々と受け継がれている理念は「より良いものをより安く」であり、当社は、商品の品質管理から価格設定、店舗づくりに至るまで、常に消費者の目線で事業を営んでおります。

現在では、これまで培ってきた『お客様第一主義』の経営手法を活かし、紳士服の新業態開発に向けた「パーフェクト・スーツ・ファクトリー事業部」、新規事業分野の開拓を目指した「外食事業部」などを立ち上げ、新たな挑戦に取り組み、衣食住の垣根を越えた総合流通小売業を目指しております。

「より良いものをより安く」
の実践



衣食住の垣根を越えた
総合流通小売業へ

● お客様に学び、店頭、現場に常に足を運び、
一人でも多くのお客様に楽しさ、期待感を感じてもらう

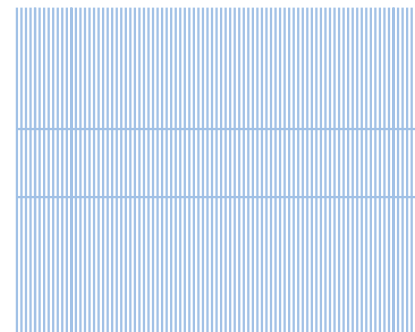
● 提案型の小売

● 夫婦、カップル、ファミリーで気軽に入れる店舗

● 男性ビジネスマンに自信をつける

● 女性客も来店したくなるお店づくり

What's Haruyama?



代表取締役社長

MASASHI HARUYAMA

治山 正史

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

本格的な夏の訪れが間近に迫る中、私共はるやま商事は、店頭におきましては夏物衣料の販売攻勢と秋冬物の導入準備を、そして本社・商品企画におきましては既に来年の春夏物の企画に取り掛かるなど、全社員が「より良いものをより安く」をモットーに業務活動に打ち込む日々を送っております。

さて、私共は、この度、第32期の決算を増収及び経常増益として終えることができました。株主、取引先、従業員のなどステークホルダーの皆様のご支援を心より感謝申し上げます。また、この業績は、高品質・高機能の新商品の積極的な開発、それらの商品の

価値あるお値段での提供、顧客満足度重視の店づくりの推進など、お客様第一主義の諸施策の成果でもあると自負しております。

なお、当期より減損会計の適用を行い、減損損失13億円と過年度の固定資産臨時償却22億円を特別損失に計上いたしました。このため、当期純利益は大幅な減益となっておりますが、これを計上しなかった場合の当期純利益は88.7%の増益となっております。

急速に変化する顧客ニーズに迅速に、かつ全力で対応し、お客様と共に発展する価値ある企業を目指してまいります。株主の皆様には、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2006年6月

To Our Shareholders
Haruyama Trading Co., Ltd. 02

『お客様第一主義』のもと、堅実経営路線を堅持しながら、
着実な成長と高収益企業への取り組みを推進してまいります。



代表取締役社長
MASASHI HARUYAMA
治山 正史

Q1

はるやま商事の
基本戦略とは
何でしょうか？

当社の基本戦略は、創業以来一貫して追求してきた経営理念「より良いものをより安く」に集約されております。

全ての出発点は「お客様」です。お客様の立場・視点から、商品や価格、お店のあり方を考える「お客様第一主義」が全てに優先する基本方針です。この視点から、「より良いもの」とは何かを考え、積極的な商品開発を行ってきた結果、当社は、高品質・高機能性において高い評価を獲得すると共に、市場の注目を集める開発型企業へと成

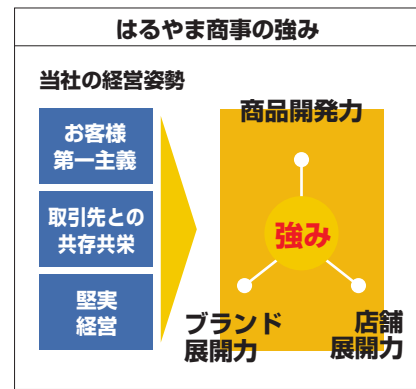
長してきました。また、「より安く」を実現するために、生地メーカー、縫製メーカー、商社など多様な取引先チャネルを開拓する一方で、自らの店舗展開においても様々な市場ニーズにマッチした新業態を積極的に開発し、効率性と生産性の高いビジネスモデルの構築に努めてきました。

こうした『お客様第一主義』に基づく基本戦略の推進により、当社は、独自の強みを獲得し、堅実かつ着実に成長してきてきたものと考えております。

Q2

はるやま商事の
「独自の強み」とは
何ですか？

景気変動の大きなうねりに影響を受けて業績悪化を余儀なくされる企業が少なくない中で、当社は、紳士服市場において独自のポジションを築き、非常に安定した業績を確保しております。当社のこの安定成長性は主に、商品開発力、ブランド展開力、出店展開力の3つの強みによるものと分析しております。そして、この3つの強みを生み出す原動力となったのが、お客様第一主義、取引先との共存共栄、堅実経営など、創業当初から大切にしてきた経営姿勢であると考えております。



Q3

3つの強みについて、
具体的にご説明ください。

まず、取引先との共存共栄を重視した経営姿勢を貫いてきたことで、他社を凌駕する「商品開発力」と「ブランド展開力」を獲得してきたものと考えます。

当社の仕入ルートは、生地メーカー・縫製メーカー・商社など多岐に亘っており、これらの多様な仕入先と一体となった商品開発を行うことで、当社の商品は「機能性の高さ」と「ファッション性の高さ」を同時に追求できる強みを持っています。一昨年に業界に新風を巻き起こした「脚長スーツ」は、「2004年日経優秀製品・サービス賞 優秀賞 日経MJ賞」を受賞し、また、昨年5月発売の「アイススーツ」は、発売1ヵ月で3万5千着の販売を記録し脚長スーツの実績(3万着)を塗り替えるなど、消費者の大きな支持を得ることができました。さらに、業界初の縦・横・斜めの3方向への伸縮を可能とした3Dストレッチの「リラックススーツ」の共同開発に成功し、昨年10月より販売を開始し、幅広い層の支持をいただいております。

次に、ブランド展開力ですが、当社は、紳士服専門店業界にあって、百貨店並みのprestige・ブランドを、お買い求めやすい価格帯で豊富に

品揃えしています。マリオバレンチーノ、チャーリーアレン、ヤマモトカンサイ、ナンバーなど、知名度の高いブランドを数多く品揃えすることで、他の紳士服専門店との差別化を実現しております。

3つ目の強みであります「店舗展開力」は、当社の堅実経営の重要な産物の一つです。当社はこれまで、景気の良し悪しや競合他社の動向に左右されることなく、自社に最適と思われるペースで確実な出店を行ってまいりました。岡山を本拠地とする当社は、中国・四国地域における店舗展開を皮切りに、東西エリアへの拠点開拓を徐々に進め、現在、北は青森から南は沖縄までの広いエリアで346店舗(2006年3月末現在)を展開するまでに拡大しております。しかし、各エリアにおける出店は未だ充分とは言えず、しかも10県で未出店の状況にあります。つまり、当社はまだ非常に豊富な出店余地を持っており、これは、今後の当社の成長ポテンシャルの高さを示しているのです。今後、特に東日本・北日本への出店を積極化させ、中長期的には全国600店舗体制を視野に入れ、年20~30店舗の出店を継続してまいります。

Q4

今後の展望を
お聞かせください。

基本はあくまでも『お客様第一主義』であり、堅実経営です。今後もこの路線を変えるつもりはございません。決して背伸びをせず、基本に忠実な経営を続けることで、お客様、取引先様に信頼され、従業員も働き甲斐を感じ、力を発揮できるのだと確信しております。お客様に対しては、機能性やファッション性に優れた提案型の商品を提供し、取引先様との共存共栄を図り、活力ある組織づくりを推進してまいります。

当社はアパレル業界に属することもあり、20~30代の若手社員が多く、経営に当たっては、こ

うした若手社員の考え方をどんどん取り入れると共に、年齢やキャリアに関係なく、やる気のある社員に重要なポストを任せるなど実力主義の人事制度を採用し、組織の活性化を図ってまいります。今後も、「はるやま流」の経営理念を継承しながら、今後の更なる企業価値の向上に取り組んでまいります。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

クールビスに対応した新商品 「アイススーツ」を 2005年5月より発売。

2005年は、地球温暖化対策の一環として、夏のノー上着・ノーネクタイの新スタイル“クールビス”がマスコミの大きな話題となりました。しかし、上着着用を必要とするビジネスマンは圧倒的多数を占め、これに対応するクールビス商品が求められる状況がありました。

そこで、当社は、日本の酷暑をどのように快適に過ごしてもらうかをテーマに「アイススーツ」を開発し、2005年5月25日より全国の「紳士服はるやま」及び「紳士服マスカット」にて販売を開始しました。

同商品は、通風量が従来の約3倍(約900cc)となり、衣類を身に付けた部分に風を感じるこ

とができます。この涼しさの驚異的な威力により、「アイススーツ」は発売1ヵ月の売上が3万5先着に達し、「脚長スーツ」の実績を塗り替えるなど多大な支持を得ました。初回ご購入のお客様が2回目以降、商品名を指名して購入される方が多く、このことから、「アイススーツ」の機能性の高さが如何に消費者に受け入れられているかがわかります。

今年もいよいよ本格的な夏の到来です。まだ、お試しいただいていない株主様は、是非一度、当社のアイススーツに袖を通して、その威力をご体感ください。



日本のファッション界では、男性市場は女性市場の約3分の1程度であり、これは欧米先進国の状況(男性市場は女性市場の約2分の1)と比べ、大きく劣っています。そこで、世の男性に「カッコ良く」なってもらうための本として発売されたのが「シャキット!」です。

「カッコ良く」なれるプロ技をアイテム別に60項目にまとめ、4コマのイラストを合わせて1項目3分間で読め、実践しやすい仕上げとなっています。

男性服飾向上委員会+M.HARUYAMAの共著で、2005年8月1日より全国の書店にて一斉発売されました。

当社の治山社長の共著による書籍
「シャキット!」が
2005年8月より
全国書店にて一斉発売。

従来の常識を超える 3Dストレッチの新商品 「リラックススーツ」を 2005年10月より発売。

当社は、2005年10月1日より全国の「紳士服はるやま」及び「紳士服マスカット」にて、今までにない全く新しいスーツ「リラックススーツ」の発売を開始しました(当社オンラインショッピングでも販売 <http://www.haruyama.co.jp>)。

同商品は、人間工学に基づき、繊維・アパレルメーカーとの共同研究により開発されたもので、今までと全く異なる伸縮性を実現した画期的な商品です。従来、縦・横方向しか伸縮しなかったものを、今回初めて斜めの伸縮を可能にし(=3Dストレッチ)、各方向の伸縮率も従来の2倍程度向上させています。身体の動きに合わせて立体的に伸縮することから、今まで感じていた窮屈さや突っ張り感といったストレスからの解放に成功しています。また、ベスト、カーディガンなどを重ね着したり、上着を着たままでのデスクワークに窮屈を感じたりせず、「ウォームビス」に対応した商品ともなっています。

リラックススーツは、脚が長く見える「脚長スーツ」、驚きの涼しさを実現した「アイススーツ」に続く第3弾の機能性スーツとして、若い世代から団塊世代まで幅広いお客様層のご支持をいただいております。



リラックススーツ

仕事や人間関係などストレスに満ち溢れた現代社会において、ビジネスシーンにあっても気持ちはリラックスしていこう!というメッセージを込めたネーミングです。イメージ・キャラクターとして俳優の「高橋英樹」さんを起用し、テレビCM、ポスター等の広告展開をしています。

リラックススーツ 3Dストレッチ素材
RELAX SUIT

脚長リラックススーツ

発売以来、お客様にご支持いただいている「脚長スーツ」とのコラボレーションモデルとして、「脚長リラックススーツ」も同時に発売しています。こちらは、俳優の「加藤晴彦」さんをイメージ・キャラクターに起用し、広告展開を図ってまいりました。

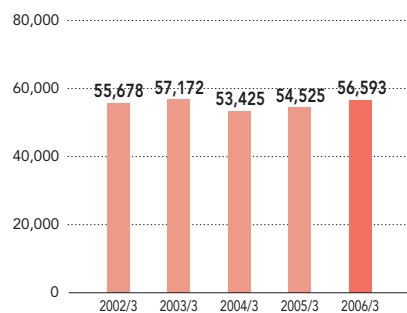


Topics

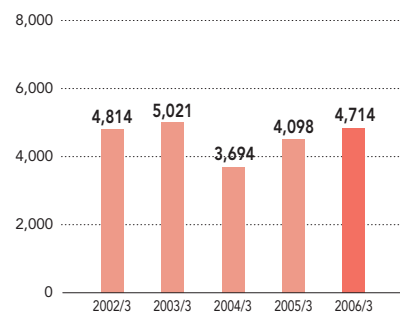
財務ハイライト

FINANCIAL HIGHLIGHTS

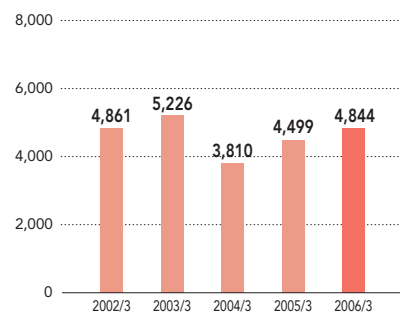
売上高



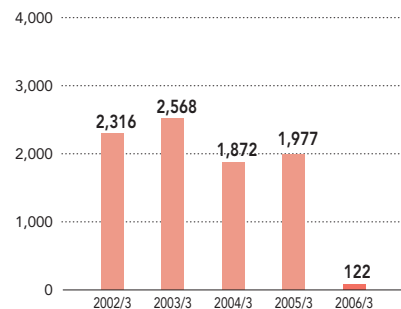
営業利益



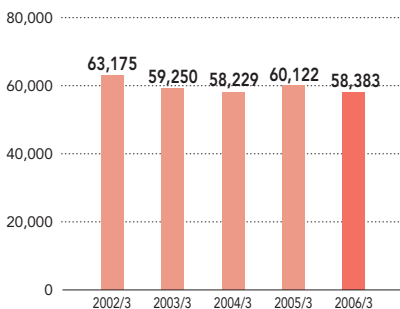
経常利益



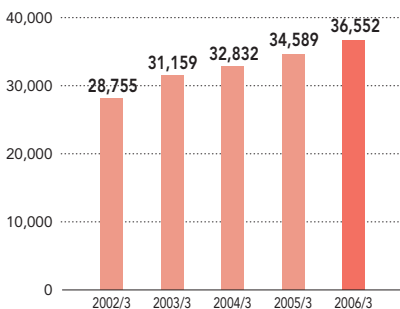
当期純利益



総資産



株主資本



商品別の売上構成比

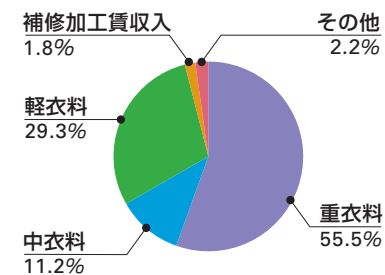
当紳士服専門店業界では、業種・業態を越えた企業間競争の激化が続く中、商品の品質と価格、サービスに対する消費者の選別がますます厳しくなっています。一方で、クールビズの浸透や、厳冬による防寒衣料の活発な動きなども見られました。

こうした環境のもと、当社は、お客様第一主義の諸施策に努めました。商品面では、新たな機能性スーツとして、上期においてクールビズ対応の新商品「アイススーツ」を、下期においては3Dストレッチ素材を使用した「リラックススーツ」を開発・販売しました。また、「リラックススーツ」の機能に業界初のストレッチ裏地(ウエストストレッチ)をプラスし「脚長スーツ」のシルエットを採用した新機能性スーツ「脚長ス

セグメント情報

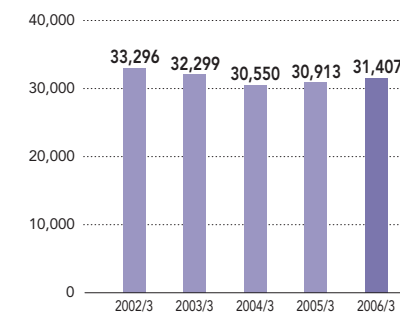
SEGMENT INFORMATION

商品別の売上構成比

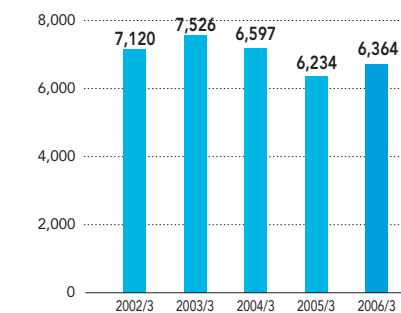


(注) 重衣料は、スーツ、礼服、コートです。
中衣料は、ジャケット、スラックスです。
軽衣料は、ワイシャツ、ネクタイ、カジュアル、小物、その他です。
その他は、書籍、生活用品等です。

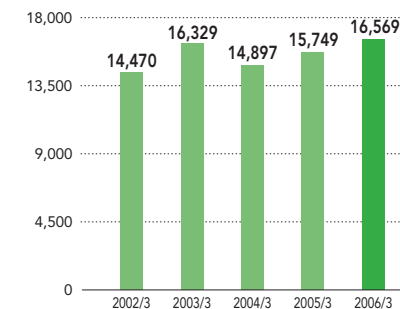
重衣料の売上高



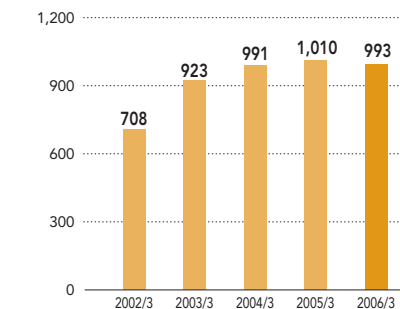
中衣料の売上高



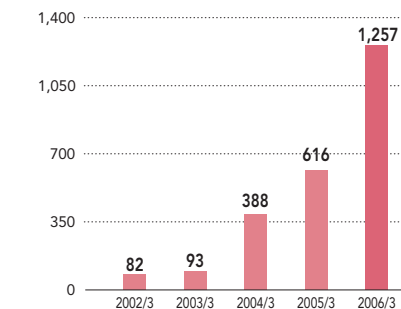
軽衣料の売上高



補修加工賃収入の売上高



その他の売上高



ーツアクティブ」をフレッシュマン向けに発売しました。

店舗面では、高感度・高品質の商品で20代から30代のビジネスマンを中心に圧倒的支持を受けているツープライスショップ「パーフェクト・スーツ・ファクトリー」を新規に8店舗出店し、従来の郊外型店舗もドミナント効果を高めるべく21店舗の新規出店、4店舗の移転・増築を行いました。一方、賃借期限満了などにより9店舗の閉鎖を行いま

した。その結果、当期末の店舗総数は346店舗となりました。

これらの結果、当期の業績は、売上高565億93百万円(前期比3.8%増)、経常利益48億44百万円(同7.7%増)、当期純利益1億22百万円(同93.8%減)となりました。なお、当期純利益の減益は、減損会計を適用したことにより、減損損失13億25百万円、過年度の固定資産臨時償却22億84百万円を特別損失に計上したことによります。

減損会計等について

当期は、固定資産の減損に係る会計基準の適用及び減損償却における耐用年数の見積経済耐用年数への変更などを行った影響が、財務諸表全体に出ております(具体的には、以下の各財務コメントをご覧ください)。

有形固定資産

減損会計適用等により、有形固定資産が前期末に比べ33億40百万円減少し、268億43百万円となりました。

投資その他の資産

減損会計適用等により繰延税金資産が15億72百万円増加し、21店舗の新規出店などにより差入保証金が3億36百万円増加するなどにより、投資その他の資産は前期末に比べ18億7百万円増加し、106億78百万円となりました。

資産合計

投資その他の資産が増加する一方で有形固定資産が減少したことから、資産合計は前期末に比べ17億39百万円減少し、583億83百万円となりました。

貸借対照表

単位:百万円

	第31期 (2005年3月31現在)	第32期 (2006年3月31現在)	増減額
(資産の部)			
流動資産	20,940	20,715	△ 224
現金及び預金	3,282	2,480	△ 801
受取手形	14	14	△ 0
売掛金	65	72	6
商品	14,141	14,436	295
貯蔵品	105	111	6
前払費用	519	539	19
繰延税金資産	564	660	95
未収入金	2,256	2,398	142
その他	26	12	△ 14
貸倒引当金	△ 36	△ 10	26
固定資産	39,182	37,667	△ 1,515
有形固定資産	30,183	26,843	△ 3,340
建物	12,497	9,813	△ 2,683
構築物	1,734	1,605	△ 129
車両運搬具	6	4	△ 2
器具備品	916	883	△ 32
土地	14,702	14,380	△ 322
建設仮勘定	325	155	△ 170
無形固定資産	127	144	17
ソフトウェア	65	85	20
電話加入権	52	52	0
施設利用権	10	6	△ 3
投資その他の資産	8,871	10,678	1,807
投資有価証券	506	490	△ 16
関係会社株式	120	120	—
長期貸付金	1,624	1,777	152
長期前払費用	844	757	△ 87
繰延税金資産	758	2,235	1,476
差入保証金	5,133	5,469	336
その他	43	43	—
貸倒引当金	△ 160	△ 215	△ 55
資産合計	60,122	58,383	△ 1,739

単位:百万円

	第31期 (2005年3月31現在)	第32期 (2006年3月31現在)	増減額
(負債の部)			
流動負債	17,351	14,977	△ 2,374
支払手形	4,188	2,513	△ 1,675
買掛金	5,778	5,830	52
1年内返済予定の長期借入金	2,029	1,527	△ 502
未払金	1,381	1,258	△ 123
未払消費税等	73	218	144
未払費用	451	589	137
未払法人税等	1,453	1,437	△ 16
預り金	60	66	6
ポイント値引引当金	456	485	28
賞与引当金	244	274	30
設備関係支払手形	1,132	669	△ 463
その他	100	106	6
固定負債	8,180	6,854	△ 1,326
長期借入金	6,363	4,894	△ 1,468
退職給付引当金	976	1,063	87
役員退職慰労引当金	640	639	△ 0
預り保証金	173	193	20
その他	27	62	34
負債合計	25,532	21,831	△ 3,701
(資本の部)			
資本金	2,905	3,990	1,085
資本剰余金	2,778	3,863	1,085
資本準備金	2,776	3,861	1,085
その他資本剰余金	2	2	0
利益剰余金	28,875	28,655	△ 220
利益準備金	560	560	—
任意積立金	25,000	26,600	1,600
当期末処分利益	3,315	1,495	△ 1,820
その他有価証券評価差額金	44	57	13
自己株式	△ 13	△ 15	△ 1
資本合計	34,589	36,552	1,962
負債・資本合計	60,122	58,383	△ 1,739

有利子負債

有利子負債の圧縮に努めた結果、前期末に比べ19億71百万円減少し、64億21百万円となりました。

支払手形、設備関係支払手形

仕入債務の支払方法を一部ファクタリングに移行したことなどにより、支払手形が16億75百万円減少、また設備関係支払手形が4億63百万円減少しました。

負債合計

上記内容を主な理由として、負債合計は前期末に比べ37億1百万円減少し、218億31百万円となりました。

資本合計

資本合計は前期末に比べ19億62百万円増加し、365億52百万円となりました。これは主に、公募増資及び第三者割当増資などにより、資本金が10億85百万円、資本準備金が10億85百万円増加したためです。これにより、自己資本比率は、前期末に比べ5.1ポイント上昇し62.6%となりました。

売上高

積極的な新規出店の効果と、商品面では前期の「脚長スーツ」に続き、当期は「アイススーツ」「リラックススーツ」「脚長スーツアクティブ」などを相次いで開発し市場投入したことなどにより、売上高は前期に3.8%増となりました。

営業利益

業容の拡大に加え、販管費の圧縮にも努めた結果、営業利益は前期比15.0%増、売上高営業利益率は前期比0.8ポイント向上の8.3%となりました。

特別損失

減損会計適用により減損損失13億25百万円、固定資産の減損償却における耐用年数の見積り経済耐用年数への変更により固定資産臨時償却22億84百万円を、共に特別損失に計上した結果、当期の特別損失は前期に比べ30億84百万円増加しました。

当期純利益

営業利益は増加したものの、減損会計適用等に伴う特別損失の大幅な増加により、当期純利益は前期比93.8%減の1億22百万円となりました。

損益計算書	第31期 (2004年4月1日~ 2005年3月31日)	第32期 (2005年4月1日~ 2006年3月31日)	増減額
売上高	54,525	56,593	2,068
売上原価	25,021	25,631	610
商品売上原価	25,021	25,271	250
商品期首たな卸高	12,818	14,141	1,323
当期商品仕入高	25,291	24,510	△ 781
補修加工費	1,053	1,056	3
合計	39,163	39,708	545
商品期末たな卸高	14,141	14,436	295
施設運営原価	—	359	△ 359
売上総利益	29,503	30,961	1,458
販売費及び一般管理費	25,405	26,247	842
営業利益	4,098	4,714	616
営業外収益	700	470	△ 230
受取利息	18	19	1
有価証券利息	0	0	0
受取配当金	24	31	7
仕入割引	106	104	△ 2
投資有価証券売却益	0	3	3
受取手数料	316	87	△ 229
賃貸収入	131	150	19
その他	103	72	△ 31
営業外費用	299	339	39
支払利息	192	158	△ 34
貸倒引当金繰入額	—	68	68
解約違約金	38	—	△ 38
賃貸費用	45	60	15
新株発行費	—	18	18
その他	22	33	11
経常利益	4,499	4,844	345
特別利益	219	62	△ 157
固定資産売却益	1	—	△ 1
投資有価証券売却益	—	58	58
貸倒引当金戻入益	218	—	△ 218
特別損失	784	3,868	3,084
固定資産売却損	171	259	88
役員退職慰労引当金繰入額	613	—	△ 613
減損損失	—	1,325	1,325
固定資産臨時償却	—	2,284	2,284
税引前当期純利益	3,934	1,034	△ 2,899
法人税、住民税及び事業税	2,213	2,493	280
法人税等調整額	△ 256	△ 1,581	△ 1,325
当期純利益	1,977	122	△ 1,854
前期繰越利益	1,337	1,372	34
当期末処分利益	3,315	1,495	△ 1,820

要約キャッシュ・フロー計算書	第31期 (2004年4月1日~ 2005年3月31日)	第32期 (2005年4月1日~ 2006年3月31日)	増減額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	4,046	2,581	△ 1,464
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,330	△ 3,268	61
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,482	△ 114	2,368
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—	—
V 現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△ 1,766	△ 801	965
VI 現金及び現金同等物の期首残高	5,048	3,282	△ 1,766
VII 現金及び現金同等物の期末残高	3,282	2,480	△ 801

現金及び現金同等物の期末残高

当期末の現金及び現金同等物は、税引前当期純利益を10億34百万円計上したことに加え、減損損失の計上が13億25百万円、固定資産臨時償却が22億84百万円、株式の発行による収入が21億51百万円ありましたが、仕入債務が10億68百万円減少したことや、長期借入金の返済による支出が20億29百万円あったことなどにより、前期末に比べ8億1百万円減少し、24億80百万円となりました。

利益処分計算書	第31期 (2004年4月1日~ 2005年3月31日)	第32期 (2005年4月1日~ 2006年3月31日)	増減額
当期末処分利益	3,315	1,495	△ 1,820
任意積立金取崩額	—	—	—
役員退職積立金取崩額	900	—	△ 900
利益処分額	302	255	△ 47
利益配当金	1株につき20円00銭	1株につき15円50銭	△ 47
取締役賞与金	40	40	—
別途積立金	2,500	1,000	△ 1,500
次期繰越利益	1,372	199	△ 1,172

利益配当金

当期の利益配当金は2億55百万円、1株につき15円50銭となりました。

会社概要

商号	はるやま商事株式会社
英訳名	Haruyama Trading Co., Ltd.
本社	〒700-0822 岡山県岡山市表町1丁目2番3号 TEL.086-226-7111 FAX.086-225-2709
設立	昭和49年(1974年)11月6日
資本金	39億9000万円
従業員数	1,164名
事業内容	地域に密着し、メンズファッションを通じてライフスタイルを提案する専門店チェーン
子会社	株式会社ミック 日本フィナンシャルサービス株式会社

役員 (2006年6月29日現在)

代表取締役会長	治山正次
代表取締役社長	治山正史
常務取締役	野村耕市
常務取締役	村上繁雄
取締役相談役	森上賢二
取締役	齋藤港
常勤監査役	板鼻義雄
監査役	松本豊
監査役	熊谷茂實

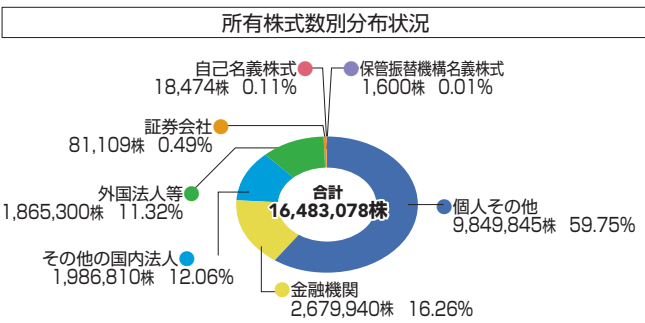
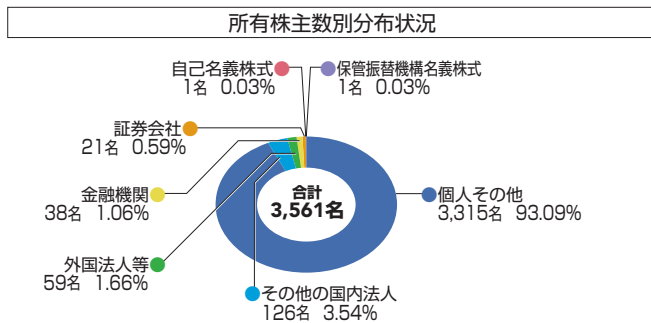
大株主

	持株数(千株)	持株比率(%)
治山 正史	2,294	13.91
治山 邦雄	1,811	10.99
治山 正次	1,759	10.67
有限会社岩淵コーポレーション	1,324	8.03
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	720	4.36
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	670	4.06
株式会社四国銀行	651	3.95
はるやま取引先持株会	438	2.65
治山 美智子	383	2.32
岩淵 典子	349	2.12

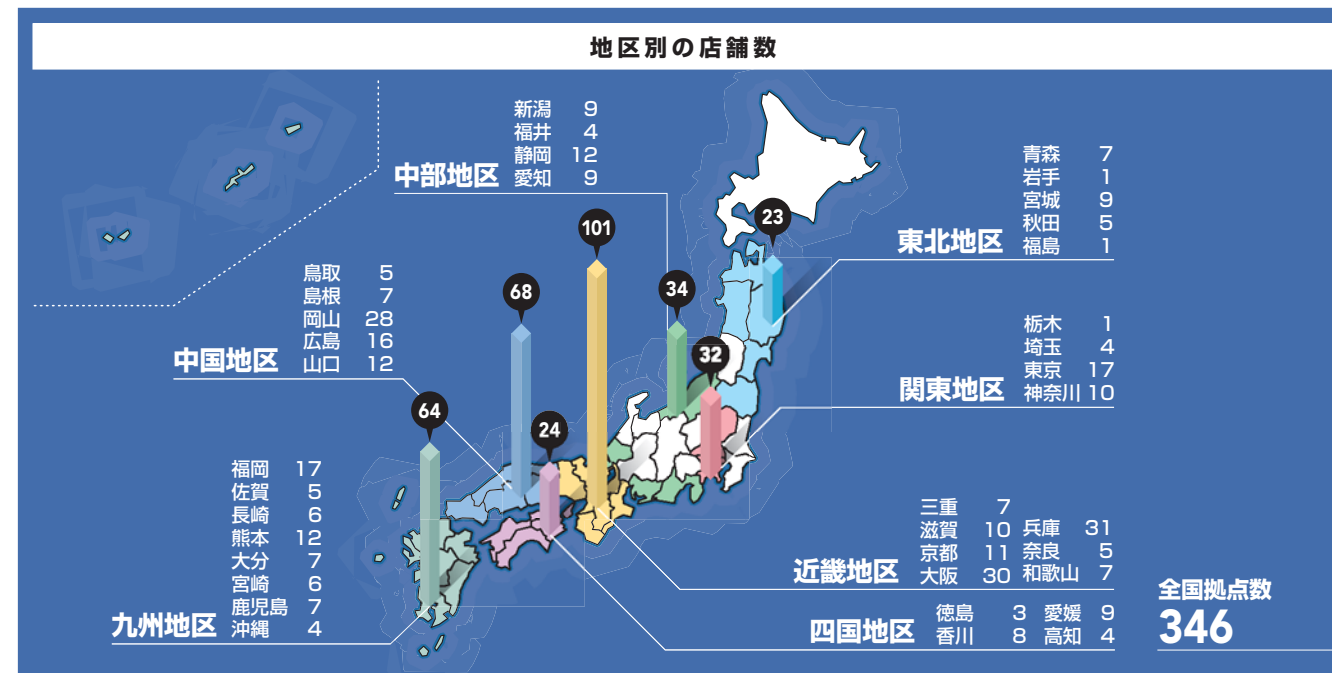
株式の状況

会社が発行する株式の総数	55,000,000 株
発行済株式の総数	16,483,078 株
株主数	3,561 名

株式分布状況



全国店舗ネットワーク



<p>紳士服 はるやま 256店舗</p>	<p>紳士服 マスカット 31店舗</p>	<p>パーフェクト スーツファクトリー 37店舗</p>	<p>その他外食・物販店舗 22店舗</p>
------------------------------	------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------